

2023年度 メリー★ポピンズ 稲城ルーム

事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

運営本部ミッションを達成する園をめざすため、以下5点のポイントを挙げた。

- ・子どもの生きる力を育むため、に日課・基本保育活動を実施した。そのためには、スタッフの資質向上は欠かせない。スタッフ同士で学び合う風土を作り、スキルアップを目指してきた。(大人のにんげん力 UP: 学び続ける文化の醸成)
- ・環境問題を自分ごとととらえ、食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育の実践する時間を捻出してきた。
- ・5歳児保育について、遊びを基盤とし主体的・協働的活動を保障されることが小学校での主体的な学びに繋がっていくと考える。また、サークルタイムなどを活かし、他者との共有、対話を大切にしてきた。(小1を知る: 小学校1年生を見て知り、逆算した保育を遂行する)
- ・コロナとの共存のなか、子育て家庭の不安や困難状況は深刻になっている。子どもを中心にしながら、保護者の気持ちに寄り添い、保護者と共に子どもを育てていくという関係性を作り、いつでも相談出来る地域の安心、信頼の拠点を作ってきた。
(接遇★神対応: 相手の気持ちに寄り添い、もう最高に幸せ! と思っていただけるように接する)
- ・本園、分園とのより良い共生のため、それぞれの特色を生かした保育を展開し、お互いを高め合える関係づくりをしてきた。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	事故のないインクルーシブ保育の実践
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の子どもの発達を理解し、関わり方、遊びの提供を考察した。 ・園外園内のハザードマップのより緻密な更新と全スタッフの理解を深めた。 ・事故防止委員会の内容の充実。(検証、再発防止策の徹底)
	次年度方向性	・事故記録簿を減らす。
2	計画・ねらい	5歳児保育、2歳児保育の充実を図り、滑らかな移行を促進する。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・5歳児のアプローチカリキュラムの実践 ・2歳児の進級を見据えた保育実践(生活習慣、遊び)
	次年度方向性	本園と分園の連立した保育の確立を行っていく。

3	計画・ねらい	日課・基本保育活動の充実を図る。
	実践結果	・デイリープログラムに沿った保育をするため、スタッフの動きや立ち位置を考察し実践した。 ・日課・基本保育活動の意味を全スタッフが理解し、子ども、保護者にスタッフ自身の言葉で言えるようにした。
	次年度方向性	日課、デイリープログラムの充実、生活リズムの安定を目指す。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の心に入り込んだ対応
	実践結果	・保育者は子どものトピックを伝えることはもちろんのこと、保護者の話に傾聴する姿勢を忘れず、何気ない表情や会話から変化をキャッチし、適切な連携を取った。
	次年度方向性	ポートフォリオや動画を活用し、より園内の様子が分かりやすくなるよう取り組む。
2	計画・ねらい	保護者、来訪者がいつ見ても気持ちが良い施設
	実践結果	・保護者の目線で施設の整備をした。 ・必要物品は定位置がある状態にし、必要なものだけが設置されている保育環境にリセットした。
	次年度方向性	プロジェクトを上げて美観管理に努めていく。
3	計画・ねらい	保育参加、個人面談の実施
	実践結果	保護者の希望を待つよりこちらからご参加をお誘いし、子どもの状況、時には課題について共に理解し、家庭と園とが同じ目線での子育てを担保してきた。
	次年度方向性	保育参加の活発化を目指す。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	青空保育の充実
	実践結果	本園分園月1回ずつ、亀山下公園にて計2回実施。参加者には予定表を配布し、次回を楽しみにしてもらい、リピーターを増やす。
	次年度方向性	実施場所を変更し、より参加していただけるよう取り組みを拡大していく。

2	計画・ねらい	保育園を知ってもらう機会を作る
	実践結果	小中高校生の保育体験希望者を積極的に受け入れてきた。
	次年度方向性	ボランティア、実習生受け入れ、園見学受け入れを継続して行っていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	保育所保育指針の学びを深める。
	実践結果	月1回の保育指針勉強会の継続、 対話型園内研修の実施
	次年度方向性	スタッフ主導で保育所保育指針の各項目について研修を実施する。
2	計画・ねらい	全スタッフのMBO目標設定から達成までマネジメントする。
	実践結果	・スタッフの特性、個性、長所を活かせる目標設定をスタッフ主体で導き出し設定する。進捗状況を確認しながら、課題があれば原因要因を一緒に考え目標達成してきた。 ・良好な関係づくりのため、スタッフ面談年5回実施する。
	次年度方向性	施設長、主任共にスタッフとの面談を定期的を実施、MBOの進捗を細目に追い、全員目標達成を目指す。
3	計画・ねらい	スタッフによる園内研修の実施
	実践結果	・園会議内でスタッフが講師となり、さくらさくらんぼリズム体操、雑巾かけ、座禅の日課や散歩、嘔吐処理、心肺蘇生のロールプレイなど他のスタッフにアウトプットする機会を作り、学びを深める。
	次年度方向性	次年度はリーダー層以外のスタッフも実施していく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	コンポストを設置し、プランターの土作りをする。
	実践結果	・子どもと一緒にコンポストを作り、自分たちが育てている野菜の土づくりに繋がることや、身近にできるごみを減らす活動を意識してきた。
	次年度方向性	本園分園共に次年度も継続して取り組んでいく。
2	計画・ねらい	「作る」と「食べる」をつなげる食育の推進

	実践結果	・残さいを減らす取り組みとして、調理や栽培に関わる取り組みを大切にしてきた。食材の生産や調達、調理に触れ、作る人の気持ちも大切にされた。
	次年度方向性	畑、食育、食事が連立し、残渣を減らす、食べられるものを増やすことに取り組んでいく。

〈6〉スタッフのにんげん力の向上

1	計画・ねらい	全スタッフが適切なタスク管理を行い、組織マネジメント力を上げていく
	実践結果	共有の TODO リストなど使っていき、仕事の全体像を把握できるようにしてきた。
	次年度方向性	タスク管理シートを活用し、リーダー層中心に現場で業務分担ができる組織を目指す。
2	計画・ねらい	コンピテンシーの追求
	実践結果	毎月の園会議にて、コンピテンシーの内容から自分はどんな行動をとるべきか、具体目標をもって自己成長してきた。
	次年度方向性	引き続き自己の目標設定、改善に取り組んでいく。

〈7〉地域資源の活用

1	計画・ねらい	自然豊かな稲城の土地の活用。
	実践結果	・稲城の地域資源を活用し、五感を使い自然を感じる直接体験を毎日の活動に取り入れてきた。
	次年度方向性	里山やふれあいの森などの地域資源を引き続き保育に活用していく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

本園月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	36人	36人	36人	78人	90人	90人	366人
年度後半： 10~3月	36人	36人	36人	78人	90人	87人	363人

分園月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	合計
年度前半： 4~9月	26人	60人	60人	146人
年度後半： 10~3月	36人	60人	60人	156人

本園延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	89人	66人	71人	72人	65人	120 人	106 人	111 人	94人	44人	43人	45人	926人
うち0 歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

（解説）3月は見込み数

分園延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	17人	25 人	18人	18人	25人	25人	34人	34人	38人	26人	39人	40人	339人
うち0 歳児	0人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	1人	3人

（解説）3月は見込み数

本園一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
うち0 歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

（解説）3月は見込み数

分園一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
うち0歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

(解説) 3月は見込み数

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤スタッフ	保育士	10人	看護師	0人	栄養士	3人	産休	3人
パートスタッフ	保育士	10人	事務	1人	用務	1人		

3. 運営報告

〈1〉 施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・保育計画の確認、自己評価、スタッフによる園内研修等
給食運営会議	月1回	乳幼児の喫食状況を把握、食育の目標について 食育活動の周知、献立の振り返り等
事故防止委員会	月1回	自園、他園で起きた事故の周知、どうすれば防げるか対応策具体的行動について等
ケース会議	月1回	要支援児の姿、個別支援計画の内容、振り返り等
クラス会議	月1回	子どもの姿、保育計画、振り返り、本園分園合同クラス会議等

〈2〉 出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉 系の設置状況

系名	活動の様子・省察
衛生管理係	児童健康管理、感染症予防対策、予防接種状況の把握と啓蒙 月毎の保健計画の実施、保健に関する書類作成等
安全対策係	設備点検、人権チェック、事故記録、インシデント、ヒヤリハット 記録、分析管理、衛生推進者の職務遂行等
防火管理者	消防計画の作成と届け出、自主検査チェック（日常）避難、消火、 通報訓練の実施管理、防災対策、自衛消防隊の編成等
食品衛生管理係	衛生管理点検表、職員細菌検査実施、食品衛生上の管理等
畑係	畑、プランター栽培の管理、年間計画実施等
生き物係	生き物の飼育管理等
清掃、備品チェック表係	掃除、備品点検がしっかりされているか、掃除表の記入漏れがない か確認等
園・保健日誌係	園・保健日誌の記入がされているか確認等
アルバム係	毎月の写真販売の確認（ぶれた写真、同じ写真の消去、販売促進 等）

絵本係	絵本の入れ替え、管理、おすすめ絵本紹介等
保育環境係	保育室、テラスの環境整備、教材の在庫確認等

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこサポーターとの交流計画の作成、連絡、実施等

4. 保育支援

〈1〉保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・レスポ稲城の定期的な訪問があり、個別の支援方法など助言いただいた。 ・生田ルームの訪問と園会議では気になる子どもの支援の研修を受けた。
保育参加	<p>4～3月まで 合計6名 が参加済み (3月1日時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あわ組の保護者様でご都合のつく方には慣れ保育の際、一緒に保育に入ってもらった。
保護者面談および発達相談	<p>4～3月まで 合計40名 が参加済み (3月1日時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お迎え対応では話せない家庭での様子や園での様子、保護者様の思いを聞いた。
運営委員会	<p>運営委員会を6月22日、11月22日に本園保育室会場にて実施し、参加した保護者7名</p> <p>詳細は議事録に記載</p>

〈2〉計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	・多くの人に囲まれ楽しく食べる環境を整えることで、人と共に食べる楽しさを感じる。
	実践結果	・手にとって食べられる食材を提供し「自分で食べたい」という意欲を養うようにしてきた。

		<ul style="list-style-type: none"> ・柔らかい食材だけでなく、歯ごたえのある食材も提供することで、あごを鍛え脳に刺激を与えてきた。 ・なるべく薄味で添加物の少ない食材を提供することで、それぞれの食材のもつ自然の味や食感を知り、食材本来の「美味しさ」を実感している。
	次年度方向性	楽しく食事をとることと並行して食事マナーの習得にも取り組んでいく。
2	計画・ねらい	・ 種植えから収穫を体験、クッキングなどの調理体験をしながら、その過程を理解することで、食材に興味をもち、自然の有難さ、作る人の気持ちを感じ、食べ物を大切にすることを育む。
	実践結果	・ 畑活動、調理体験、商店街ツアーなどを通して五感を使い食に興味関心が持てるようにしてきた。
	次年度方向性	子ども達が主体となった食育、クッキングを実施していく。
3	計画・ねらい	・ 園生活全体で取り組む食育にしていく。
	実践結果	・ 保育計画に盛り込み、単に行事や調理のことだけではない、保育の一環としての食育を推進する。ポートフォリオやタイムラインで発信し、家庭も巻き込んだ。ピザクッキング、味噌作りは保護者の参加を募った。
	次年度方向性	引き続き保護者も巻き込みながら食育を展開していく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月9日／11月10日に実施
歯科検診	6月12日に保育室にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	<ul style="list-style-type: none"> ① 4月20日に本園保育室にて手洗い指導を実施 ② 11月に保育室にて個別に手洗いを実施 ③ 随時、歯みがき指導を実施
流行した感染症	① 12月7日にノロウイルス、園児32名・スタッフ5名蔓延し、南多摩保健所へ報告、12月20日に終息。
発作・痙攣等の対応	5月24日に3歳児女児熱性痙攣で救急車要請をする。

エピペン使用できるスタッフの状況	・3月27日に本園保育室にてエピペン研修を全スタッフ31名が新たに受講し習得済み
その他保健に関する取組	感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検(簡易)	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
	衛生管理点検表/毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
衛生管理	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	予防接種状況・既往歴の確認 /保険証期限確認	年2回/4・10月 ⇒4月1日、10月1日に実施済み
健康管理	身長体重測定	毎月1回/20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回/6月9日、11月10日 あわ組は月1回内科健診 歯科健診 各年1回/本園6月12日、分園6月19日
	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回/4・10月の園会議時 ⇒4月20日、10月19日に実施済み
運営管理	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	コンポストを設置し、プランターの土作りをする。
	実践結果	・子どもと一緒にコンポストを作り、自分たちが育てている野菜の土づくりに繋がることや、身近にできるごみを減らす活動を意識していく。
	次年度方向性	・子どもと一緒にコンポストを作り、自分たちが育てている野菜の土づくりに繋がることや、身近にできるごみを減らす活動を意識してきた。
2	計画・ねらい	「作る」と「食べる」をつなげる食育の推進
	実践結果	・残さいを減らす取り組みとして、調理や栽培に関わる取り組みを大切にす。食材の生産や調達、調理に触れ、作る人の気持ちも大切にする
	次年度方向性	畑、食育、食事が連立し、残渣を減らす、食べられるものを増やすことに取り組んでいく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧（本園）

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	コート掛け（4）	玄関	毎日	異常なし
2	消火器カバー（2）	玄関・テラス入口	月1回	異常なし
3	バケツ棚	乳児トイレ	月1回	異常なし
4	避難はしごカバー	エントランス	月1回	異常なし
5	押し入れ棚	押し入れ	月1回	異常なし

手作り遊具・家具一覧（分園）

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	L字パーテーション	保育室	毎日
2	本棚	保育室	毎日
3	コの字棚	事務所	月1回
4	ままごと台	保育室	毎日
5	コート掛け	玄関	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	過去の事例や予測される事故には職員全員周知の上、事故に発展することがないように注意喚起する。必要以上に危険回避をすることは子どもの「乗り越える力」「生きる力」を損なうことにもなりかねないので、職員
---	------	--

		全員の総意のもと意識の統一を図る
2	実践結果	日ごろより防犯に対する意識を高めるために、毎月避難訓練を実施・シミュレーションを行う
3	実践結果	事故・怪我においては心身共に苦痛を被った子どもと保護者の気持ちに誠意を持って応えることが重要である。どんな小さな怪我でも保護者に伝え忘れないようにする。また、前日のどんな小さな怪我（発熱なども含む）でも伝達することにより、翌日の担当保育者が保護者及び子どもに言葉をかけ、状況を把握するようにする
4	実践結果	救命士資格を有する職員集団のため、心肺蘇生、AEDの使用方法など、叱咤の場合にも行動できるように訓練していく
5	実践結果	防犯（不審者）に対する訓練は1年で2回実施。更に日々の生活の中で常に意識することが重要である為、散歩時における対応や園内における対応の仕方など会議などで都度意識喚起をする
6	実践結果	園外保育におけるリスクマネジメント
7	実践結果	園内保育におけるリスクマネジメント
8	実践結果	水辺のリスクマネジメント

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

小中高生を夏休みに職業体験・ボランティアで受け入れた。実習生は学校より依頼のあった学生を受け入れた。両方とも受け入れることによって、スタッフの学びにつながった。来年度も積極的に受け入れていきたい。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
5月23～24日 7月4、6日	日本児童教育専門学校	1人	観察実習
7月5～6日	東京子ども専門学校	1人	観察実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
7月24～25日	多摩大聖ヶ丘高等学校	2人
7月27日	広尾学園高等学校	3人
7月26～27日	駒沢学園女子高等学校	1人
8月4日	大妻多摩高等学校	1人
7月30日	広尾学園中学校	1人
8月29日	広尾学園高等学校	2人
9月6～8日	稲城第一中学校	4人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

本園

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシ ー自己採点	18日 12名	18日 14名	15日 10名	20日 13名	17日 14名	21日 15名	19日 15名	16日 20名	21日 14名	18日 17名	29日 18名	29日 18名
園内研修	18日 12名	18日 14名	15日 10名	20日 13名	17日 14名	21日 15名	19日 15名	16日 20名	21日 14名	18日 17名	29日 18名	29日 18名

分園

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシ ー自己採点	18日 5名	18日 4名	15日 5名	20日 5名	17日 6名	21日 4名	19日 4名	16日 5名	21日 5名	18日 4名	29日 4名	29日 4名
園内研修	18日 5名	18日 4名	15日 5名	20日 5名	17日 6名	21日 4名	19日 4名	16日 5名	21日 5名	18日 4名	29日 4名	29日 4名

〈2〉外部研修への出席

参加なし

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	18日 2名	16日 2名	20日 2名	18日 2名	22日 2名	19日 2名	17日 2名	14日 2名	19日 2名	16日 2名	20日 2名	19日 2名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	14日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	9月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

「新しい日常の地域交流を考える」

昨年度はちきんえっぐ参加者がほぼ0人だったが、今年度は毎月述べ10名以上来園していただき、地域交流を促進することができた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育(保育園主催)	月1回 公園名: 亀山下公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先: 稲城第一図書館、稲城消防署、ルパ、稲城駅前郵便局、稲城駅、おくりびと等
世代間交流	毎月1週目木曜日、金曜日にツクイにて交流を実施
異年齢交流	2月26日に南山小学校にて学校探検を実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3~5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

- ・ 保育所保育要録を各学校へ送付した
- ・ 保育園から小学校への就学を円滑に進めるため、園児が小学校へ行く機会を設け、特に小学校1年生との子ども同士の交流の場を設けた。
- ・ 保育園での保育内容、小学校での教育内容をそれぞれの職員が理解し合える場に参加し、情報交換ができた。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
11月10日	南山小	15人	発表会リハーサル見学 （南山小）	子ども間交流
1月15日	稲城第三小学校 1年1組2組3組	14名	体育授業体験（第三小校 庭）	子ども間交流
2月26日	南山小学校 1年3組	15名	授業参観	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

個別支援計画は6名、生活習慣、感覚機能、言葉、人とのコミュニケーションなどの項目で計画を作成し、評価を記録した。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

- ・ 4～3月に計12回開催 参加者：月5～6名
- 「気になる行動」「好ましい行動」「今後の援助」について個々に話し合い、議事録を全スタッフで共有する。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

保護者の了承を得た上で、行政の機関と連携し、進学予定の小学校とも情報を共有していく。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	16名	38名	20名	39名	8名	16名	30名	16名	16名	16名	228名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計0件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計24回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	6名	18名	9名	12名	4名	6名	5名	6名	6名	6名	78名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計12回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	4名	0名	0名	4名	0名	2名	0名	0名	4名	0名	14名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：亀山下公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

学研データサービスに依頼して受審済み

アンケート配布日：9月6日

アンケート回答率(スタッフ)…93.5% / アンケート回答率(保護者)…47.1%

経営者ヒアリング・施設長ヒアリング・園審査：11月2日に実施

(省察)

利用者アンケートと比較し、保護者の回答率が半分以下だった。3年後に受審するときはお声掛けをし、より多くの意見をいただけるようにしていく。また実施時期が近かったこともあり、ご意見が同じ内容が多かった。日ごろより課題として感じているところなので早急に改善していきたい。また、スタッフアンケートでは職員より働き方や人員配置についての意見があった。組織を上げて改善に取

り組んでいく。

〈2〉園による自己評価の実施

本園

2023年7月24日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：8時30分

自己評価終了時刻：17時30分

自己評価実施者：園長、主任、保育士、栄養士

分園

2023年6月30日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：8時30分

自己評価終了時刻：17時30分

自己評価実施者：園長、主任、保育士、栄養士

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：本園100% 分園100%

(省察)

本園

エプロンなど行事で使用する際、案内が2日前などのことが多く、準備ができないこと。

掲示等を利用し、早めに案内ができるようにした。

面談の機会を増やしてほしい。年度末にかけて、希望者は全員個別面談を実施し、必要に応じて園長も面談に同席した。

分園

保護者対応について、玄関にPCを設置し、その日の動画を流すことで待った気がしない工夫ができています。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：メリー★ポピンズ稲城ルーム 施設長 泉 海翔